



がん患者やその家族らが伊勢市御園町高向の交流施設「緑の家」に集い、互いに生活面の悩みなどを語り合う「おしゃべりサロン」が、患者らの不安の和らげに一役買っている。月1回のサロンには2～5人が参加し、開始以来間もなく2年を迎える。悩みの共有で、患者らの前向きな生活への支援の場として定着しつつある。

(渡辺大地)

伊勢志摩版

民家のよつな造りの一室に時折、笑い声が響く。もともと面識のなかった、がん患者らがテーブルを囲み、がんの体験や術後の悩み、病状とは関係ない近況まで、ざっくばらんに語りつづけた。

参加者の男性は「皆さんと話をしていると、自分だけがつらいんじゃないと励みになる」と顔をほころばせた。

サロンを主催するのは県がん相談支援センター(津市)。二〇〇八年の設立以降、津市をはじめ県内四力所で、定期的に同様の取り組みをしている。

伊勢のサロンも、このうちの一つ。併設の建物で診療所を営む遠藤太郎医師(六)が一〇年六月、広く患者の憩いの場

生活の悩み共有

がん相談 輪 広がれ

サロン丸2年

伊勢・緑の家

として、緑の家を開設して以降、支援センターに協力し、サロンの場としても提供している。

遠藤医師によると、がん患者は術後も、再発や、通院に伴う仕事、生活環境の変化による不安がつきまとうケースが多い。薬の副作用による体のしびれなどで生活が不自由でも、家族に遠慮して悩みを内に秘めてしまふこともある。

医療機関に相談窓口が設けられているケースはあるが、相談の対象は治療内容が主。

サロンでは、治療以外の生活面の相談に重点を置いている。遠藤医師や、支援センターで研修を受けた、がんを経験した人らが耳を傾け、助言役として同席。がん患者

月1回開催

支援の補完的役割を担っている。

「自分のことを話し、人のことを聞き、共感することが安心につながる。個人の情報管理も徹底している」と遠藤医師。

開始から二年を迎え、遠藤医師は手心えを感じているが「伊勢にこうした場があることを知らない人が多い」と残念がり、根気強く周知を図っていくつもりだ。

サロンは毎月第二木曜日に二時間開催。次回は六月二十一日。参加無料。予約不要。問い合わせは緑の家＝電0596

▲ テーブルを囲んで語らう「おしゃべりサロン」の参加者＝伊勢市の緑の家で